

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 19人 国語B 19人

② 算数A 19人 算数B 19人

5 留意事項

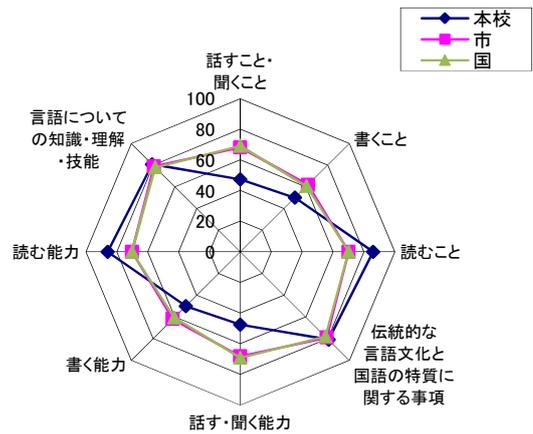
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

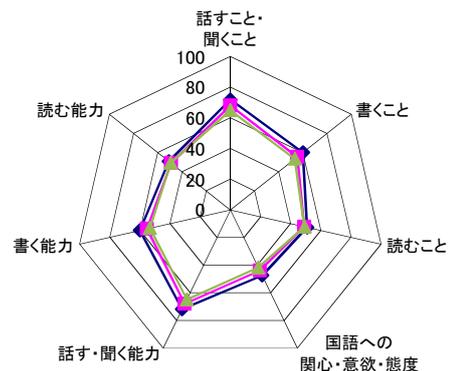
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	47.4	68.2	69.2
	書くこと	50.0	62.0	60.6
	読むこと	86.0	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.9	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	47.4	68.2	69.2
	書く能力	50.0	62.0	60.6
	読む能力	86.0	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	80.9	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	71.9	68.0	64.9
	書くこと	60.0	55.3	53.4
	読むこと	50.9	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	47.4	43.9	41.7
	話す・聞く能力	71.9	68.0	64.9
	書く能力	60.0	55.3	53.4
	読む能力	50.9	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

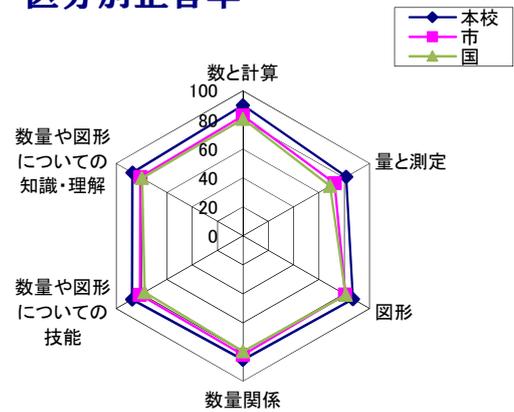
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>・Aでは本校の平均正答率が47.4%で市の平均正答率を20.8ポイント下回り、Bでは本校の平均正答率が71.9%で市の平均正答率を3.9ポイント上回った。</p> <p>○目的や意図に応じた言葉遣いに関する設問では市と全国の平均正答率を上回った。</p> <p>●互いの考えの共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話し合うことの設問では、市の平均を19.2%下回った。設問は一つだが、課題があると見える。</p>	<p>○目的や意図に応じた言葉遣いや場に応じた言葉遣いについては、継続して指導していく。</p> <p>・互いの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う力については、国語科の学習だけでなく、学級活動や道徳などの話し合い活動を通して、友達の意見と自分の意見を比べながら話を聞いたり、話し合いを進行したりすることができるように指導する。</p>
書くこと	<p>・Aでは、本校平均正答率が50.0%で市の平均正答率を12.0ポイント下回り、Bでは本校平均正答率が60.0%で市の平均を4.7ポイント上回った。</p> <p>○目的や意図に応じて必要な内容を整理して書く設問では市の平均正答率を19.3ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じ、内容の中心を詳しく書く設問では市の平均正答率を21.0ポイント下回った。</p>	<p>・目的や意図に応じて、必要な内容を取捨選択して整理しながら書くことについては指導を継続していく。</p> <p>・内容の中心をとらえることが難しい児童に対しては、話し手や書き手の伝えたいことは何かを考えさせる機会を多く設ける。</p> <p>・内容を詳しく書くことが難しい児童に対しては、文章を要約したり、話や文章の中心をとらえて簡単にまとめることができるように指導する。</p>
読むこと	<p>・Aでは、市の平均正答率を15.8ポイント上回り、問題Bでは、市の平均正答率を1.9ポイント上回った。</p> <p>○Aにおいては誤答が比較的少なく、無回答率も0%である。</p> <p>●Bにおいては正答率が極端に低い設問がある。また、無回答率が高い設問がある。</p>	<p>・文章の中から必要な情報を見つけて読むことや登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える力はおおむね身に付いていることが分かった。</p> <p>・話し合いのおける発言の意図を読み取る設問での誤答が多かった。聞くこと・話すことの領域と関連させながら、話し手や書き手の意図を考えさせるような場を意図的に設定し、読む力の向上を図る。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>・全国及び市の平均正答率とほぼ同等と言える。おおむね定着していることが分かる。</p>	<p>・今後も定着を図っていくことができるように、瑞穂野地域学校園共通の漢字ミニマムを活用し、中学校進学までに小学校で履修した漢字を繰り返し復習していく。</p> <p>・文章を読んだり、作文を書く際にも必要となる語彙力についても課題が見られるため、分からない言葉を辞書で調べる活動や調べた語句を使って、文章を書くなどの活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

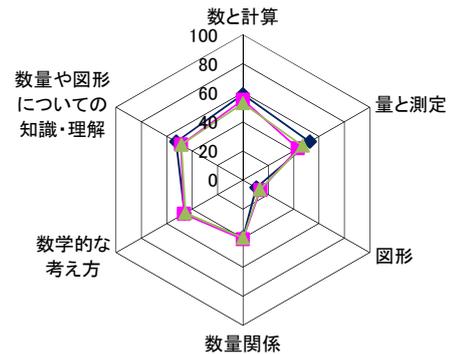
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	90.1	82.9	80.6
	量と測定	81.6	72.5	68.8
	図形	86.8	80.8	81.1
	数量関係	85.3	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	87.5	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	87.2	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	58.9	55.1	52.8
	量と測定	52.6	43.4	47.0
	図形	10.5	13.8	13.2
	数量関係	39.5	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.2	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	52.6	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>・Aでは本校の平均正答率は90.1%で市の平均正答率を7.2%上回った。Bでは本校の平均正答率は58.9%で市の平均正答率を3.8%上回った。</p> <p>○Aの整数の乗法、商を分数で表す設問、最小公倍数を求める設問の正答率はいずれも100%だった。</p> <p>●小数を含む計算での誤答が見られた。</p>	<p>・計算については、ドリルなどを活用し、繰り返し練習ができるようにする。授業では単元に関わりのある既習事項の復習を取り入れるなどして、基本的な知識の定着を図る。</p> <p>・つまずきの多かった小数を含む計算については、機会をとらえて計算の練習に取り組ませ、理解が深まるよう個別に指導する。</p>
量と測定	<p>・Aでは本校の平均正答率は81.6%で市の平均正答率を9.1%上回った。Bでは本校の平均正答率は52.6%で市の平均正答率を9.2%上回った。</p> <p>○A、B合わせて、数量や図形についての知識・理解の観点でみると、本校の平均正答率は約80%である。</p> <p>●Bの数学的な考え方をを用いる設問に対しては平均正答率が極端に低く、21.1%である。</p>	<p>・文章問題等、示された情報を基に、筋道を立てて考える問題に取り組ませる。また、答えを導き出すために使った知識や数学的な考え方を言葉や図で説明したり、友達の違う考え方を聞いたりさせる。</p>
図形	<p>・Aでは本校の平均正答率は86.8%で市の平均正答率を6ポイント下回った。Bでは本校の平均正答率は10.5%で市の平均正答率を3.3%下回った。</p> <p>○Aで出題された設問では、平均正答率が80%を超えており、おおむね定着していることが分かった。</p> <p>●Bで出題された問題は、割合と図形の複合問題だった。数学的な考え方をを用いるのが苦手なことが分かった。</p>	<p>・Aでの図形領域の平均回答率は出題された問題全てで80%を超えていることから、図形に対する基本的な知識はおおむね定着していると考えられる。今後は、複合問題のような発展的な問題に触れさせる機会を増やしていきたい。</p> <p>・一人で発展問題に取り組むことに、抵抗がある児童もいるため、複数で協力して課題を解決するような学習形態で指導する。</p>
数量関係	<p>・Aでは本校の平均正答率は85.3%で市の平均正答率を3.4ポイント上回った。Bでは、本校の平均正答率は39.5%で市の平均正答率を1.3ポイント下回った。</p> <p>○基本的な知識や技能を問う設問では、平均正答率が高い。</p> <p>●記述式の設問では、平均正答率が低い傾向が見られた。特に数学的な考え方をを用いる設問の平均正答率が低い。</p>	<p>・基礎的な知識については、身に付いているといえる。平均正答率が低いのは、示された問題から必要な情報を選択し、活用する問題である。筋道を立てて考える文章問題等に取り組む機会を設けていきたい。</p> <p>・目的に合わせてグラフを選択する設問の正答率も低かった。グラフを目にする機会を増やしたり、グラフの種類によって分かりやすさに差があることなどを指導していきたい。</p>

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- ・朝食、起床、就寝時刻など、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の質問には、100%の児童が肯定的に回答している。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の質問では、否定的に回答している児童が30%以上いる。自信を持って活動ができるように言葉かけをしているところである。
- ・友達との話し合い活動では、互いを尊重しながら話し合いをし、自分の意見も持つことができていると100%の児童が回答した。比べながら聞いたり、友達の意見に対する自分の意見を持っている児童が多い。
- ・家庭での学習は1時間以上取り組んでいる児童がほとんどである。宿題の量を調節したり、自主学習の方法や進め方を紹介したことは家庭での学習を確保することに大いに役立っていると言える。計画を立てて、取り組んでいる児童がほとんどである。
- ・読書している時間を問う質問では、1日当たり1時間以上読んでいる児童もいれば、全くしない児童もいる。回答結果にはばらつきがあり、個人の差が大きい。読書をあまりしない児童に対しては言葉かけをしていく必要がある。また、読書をしていると答えた児童の中には趣味の読書に時間を費やす児童も少なくないため、読む本の選び方なども指導していきたい。
- ・「新聞を読んでいますか」の質問では肯定的な回答をする児童が少なかった。授業で新聞の活用を取り入れていきたい。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る活動の充実 ・自分の考えをもち、それを文章にまとめて書く指導の充実 ・学習内容の定着と習熟に向けての指導の充実 ・家庭学習を習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動の振り返りを具体的に行い、自分の状況を正しく認識できるようにしている。 ・家庭学習の計画や実施状況を確認できるようにしている。 ・授業の中で、発問を明確にしたり、文章で表現する機会を意図的に設定したりしている。 ・学習内容の理解状況を確認する場を設定したり、類似問題に取り組む機会を設けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への質問紙では、「分かる」「できている」と回答する児童が多い。実態と児童の認識にずれがある。 ・計画を立てて学習している児童は少ない実態がある。実施状況については毎日記録しているため、家庭学習に取り組む直前に内容を考えていると思われる。 ・自分の考えを書くこと、自分の考え自体を持つこと、自分の考えを話すことが苦手な児童が多い。 ・基礎的な問題に対する不正解率も高い。活用の問題になるとさらに不正解率は上がる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えをもち、言葉で表現したり、考え自体を持つことに課題が見られる。 ・基礎的な知識を活用した問題に対し、問題文が理解できなかつたり、解いていく筋道が立てることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容(算数)の定着と習熟に向けての指導の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、学習内容の理解状況を確認する場を設けたり、類似問題に取り組ませ、習熟を図ったりする時間を位置付ける。